

「新たな西京区基本計画の策定に向けたアンケート」調査結果

1 西京区の「よいところ」について

西京区のまちについて、よいところ、伸ばしていくべきだと思われる点
人と人が支え合う区民が主役のまちづくり(コミュニティ, 子育て, 教育, 高齢者福祉, 障害者福祉, 安心・安全, 防災, 医療・健康, 商業・工業) 【コミュニティ】 (自治会) ・自治会活動ネットワークの強さがある。もっと伸ばしていく必要がある。 ・地域まちづくりのネットワークの仕組みが存在する。(自治会, 「にしきょうねっと」他) ・自治会組織や各種団体の活動とその連携が充実すること (学区) ・学区の連携が良い。 ・地域と学校もつながっている。(見まもり隊等心強い) ・地域では各学区毎に様々な取組がされている。 ・人間関係が良いと思う。 ・PTA 活動が活発で、親同士の関係が深い。 (ボランティア) ・各団体の美化運動等, ボランティア活動が活発。 ・住民の手により, 河川を美しくしたりする等, ボランティア活動が多く見受けられる。 ・福祉分野において, 市民参加が比較的充実して, 地域力の基盤になっていると思う。(女性の視点から) (1)福祉施設へのボランティア (2)各学区の福祉事業へボランティア (3)各学区自治連合会事業等への参加 ・人材が豊かであること。(活躍を期待できる) (その他) ・「にしきょう・ねっと」のように, 区内の地域活動の交流が図られている。 ・西京区地域福祉活動計画がこの7月にまとめあげられています。住民の声も十分に入っているこの冊子を有効に利用してはどうでしょうか。 ・地区住民の間によき時代の絆がまだ残っている。この特性を伸ばしていくべき。

2 西京区の「気になるところ」について

西京区のまちについて、気になるところ、課題と思われる点
人と人が支え合う区民が主役のまちづくり(コミュニティ, 子育て, 教育, 高齢者福祉, 障害者福祉, 安心・安全, 防災, 医療・健康, 商業・工業) 【コミュニティ】 (自治会) ・自治会組織に加入していない世帯が増加傾向にあり, 自治活動の基盤を揺るがしている。 ・自治会等について若年層の自治会離れが心配されていますが, 新興住宅やマンション等が増え, 昔から住んでおられる方との考え方にギャップが出てきていると思います。 ・地域のつながりの希薄化や自治会離れが進んでいると言われている。個の尊重は, 自他の尊重であることや, 家庭生活と他の活動との両立の大切さやワークライフバランスの取組もはじまっている。一自治会の問題ではなく, 大きく根深い課題でもある。両立活動について考えてみたい。 ・自治会加盟率が低くボランティアをする人も少ない ・自治会役員のなり手, そして, 自治会費未払の対策 (その他) ・「新しい人が入ってくるのは嫌だが, 役はやって欲しい!」と言われる地元の方と「役をやるなら自治会には入らない!」という新住民との間に溝ができ, 本来あるべき助け合いのできる近隣の付き合いが希薄になってきているのが懸念されます。お互いが歩みより, 新しいコミュニティづくりが出来ていければいいと思います。 ・古い人と新しい人との調和と融合が課題です。 ・若年層の方々の地域に対しての関心が少なく自己中の人が多い。 ・まちづくり活動に関する情報が, 区民の皆さんに届いていないと感じています。活動を企画してもほとんど応募がありません。 ・従来からあったものの, 現在あまり機能していない, 「街角の案内板」の見直しを提案します。案内板の設置場所, 見やすい形, 数, 維持管理, 担当者を決めて新しいニュースを伝える等, 区民が皆同じ情報を共有できるようにすることが必要だと思います。特に大原野のように, 超高齢社会では, インターネットでの発信情報はほとんど伝わっていません。

西京区のまちについて、よいところ、伸ばしていくべきだと思われる点	西京区のまちについて、気になるところ、課題と思われる点
・より親密な心温まる地域を目指して、まとまりのあるまちづくりが大切と考える。 ・西山の緑をはじめ自然や歴史、地域に伝わる伝統などを守るため地域社会が一体となる地域文化の創造，地域による行事等，関心を持って参加し，住民交流の活性化 ・元々いた人と，新しく西京に入ってきた人とが，うまく融合していくプロセスがよいです。 ・他の行政区は分かりませんが，西京区の各行政機関と各学区連合会組織の連携がスムーズに行われ，なお且つ，各学区間の連携及び情報交換も行われていると思います。 【教育】 ・子どもたちの想像力，コミュニケーション力の育成に有利な環境が身近にあること(自然体験，労働や奉仕，交流体験など)。 【安心・安全】 ・凶悪犯罪が非常に少ない，安心・安全なまちである。 ・区全体で安全に対する取組が活発であると考えます。 【防災】 ・地域住民が防災，見守りに活動を主体的に行っている。	・ベッドタウン的要素による住民の意識の低さ。 ・高齢化が進む事により，地域力が低下するおそれがある。 ・洛西方面(支所)と京都方面(本所)での地域間の交流が少し出来ていないように思う 【子育て】 ・保育園が少なく，働きたいお母さんが困っている。 ・核家族(二世帯)であり，団地の集会所等で「子育て広場」の出前をして，若いお父さん，お母さんに子育ては，親育ちを体験してもらう等。 【高齢者福祉】 ・進行している高齢化に向けて，日常生活の移動手段を考えてみる。 ・独居高齢者の見守りや安否確認の難しさ。 ・少子高齢化への対応。 ・少子化，高齢化が既に進行している地域が多い。 ・素晴らしい自然や景観のあるまち西京区ですが，高齢化社会に対応するため高齢者の方たちが，いつまでも楽しく憩える場所作り。 ・独居高齢者対策 【安心・安全】 ・今の西京西部の交通は他府県の方には便利になってきているかも知れませんが，この地域に住む者には必ずしもそうとは言えないのではないのでしょうか？広い道ができ，車が増える事で旧道へ抜け，スピードを出して通る車が増え，通学路等では子どもの安全が脅かされています。 ・通過車両(観光も含む)の対策による交通安全への配慮。 ・交通手段が自動車，バイク，自転車に依存しているのにマナーが悪い。 ・阪急桂駅周辺の治安が悪い。 ・西京区全体が他区と比較すると夜間は暗く感じられる。商店が少ないのでもう少し明るい行政区としてはよいのでは。 【防災】 ・旧来の街並みは，道路幅員が狭く，災害時に支障をきたす。 【商業・工業】 ・商店など商業施設の減少，衰退による不便さ。 ・地元商店の振興 ・国道沿道の店が，地域とのかかわりがなく存在するなど，広域行政と地域

西京区のまちについて、よいところ、伸ばしていくべきだと思われる点	西京区のまちについて、気になるところ、課題と思われる点
環境と共生するまちづくり(自然環境, まち美化, 景観, 農業) 【自然環境】 ・自然豊かな環境 ・農地や西山の保全 ・桂川や西山のよさをもっと残すべきと思う。里山の大切さを大事に。 ・水, 里山など自然環境の豊かさ。 ・自然が豊かなので, 環境整備と保全を心掛けなければならない。 ・北区, 東山区同様に緑の多い行政区であると同時に空気のおいしい西京区である。 ・緑豊かな西山連峰や, 水清き桂川など大, 中河川にも恵まれている。 ・どの地域からでも近くに河川があり, 子どもたちは水遊びができる。 ・私の住む大枝学区は小畑川の上流で, 初夏には蛍が飛び, 小魚を追う鳥の姿も多く見られ, また竹林や柿畑等西京の昔の風景が残っている地域です。昔から住む方のためにもこれから大きくなる子どもたちのためにも長閑なこの風景を残していきたいと思います。 ・桂川, 小畑川, 西山, 身近な緑など自然環境が豊かであり, 自然環境の保全を更に推進していくべきである。 ・自然資源が豊富に存在するとともに, 自然資源に関わる地域活動が活発である。 ・子どもをはじめとして, 様々な世代が, 自然に親しみやすい環境にある。 ・ニュータウンの街路樹, 公園の緑が豊かである。 ・緑が多く歩きやすく, 住んでいてほっとする。 ・西山, 尾畑川, 身近な景観, 自然環境を大事に 【まち美化】 ・住民の美化運動や, 環境保護意識が高い ・地域に密着した地産地消のまちづくりが必要である。 ・学区における廃油回収をもっと徹底して欲しい ・DO YOU KYOTO (環境にいいことしてますか?) を区民に PR してほしい。	行政まちづくりとの関係が持たれていないこと。 ・産業力がない。サービス業が多く, 生産業がない。 環境と共生するまちづくり(自然環境, まち美化, 景観, 農業) 【自然環境】 ・西山は近いが, 町の中に緑が少ない。 【まち美化】 ・地球温暖化に最も影響を与えているのが二酸化炭素の排出です。そのためにも廃油回収の徹底と, 各家庭から出る (ゴミ減量だけでない) 電気製品等々の CO2 の削減のための取組を進め, 家庭生活でのエコ活動の輪を広げたい。住みよいまちにするためには, そこに住む住民の意識革政も重要である。 ・環境という視点から消費生活も考える必要がある。

西京区のまちについて、よいところ、伸ばしていくべきだと思われる点	西京区のまちについて、気になるところ、課題と思われる点
【景観】 ・西山の山懷に抱かれた風景は心を安らかにさせてくれる良い所と思う。 ・嵐山から大原野にかけて西山の美しい山並み、松尾大社の鳥居のある風景を大切にまちづくりを進めて欲しい。 ・京都市内でも貴重な昔ながらの山辺の風景が残っている。 人と歴史・文化が輝くまちづくり(歴史・文化、生涯学習、大学、スポーツ、観光、交流) 【歴史・文化】 ・名勝、史跡が多く、隠れた文化財や名所も多い。 ・名所旧跡が多い。 ・史跡も数多くあり、何でもない道端に「弘法の井戸」がある大枝地区もその一つと考える。 ・西山周辺には、古代の遺跡も多くみられ、古代のロマンも感じられます。 ・西山文化、歴史をPR ・地域にゆかりのある祭り、行事、イベントを継続していくべきである。 ・地域の祭りがあるがより盛んにするべきである。 ・精神的安定にもなるので文化的な活動をもっと活発にするべきと思う。 ・多くの寺社仏閣が西京区全域にあるが、現地への案内、道しるべの再確認及び周辺道路整備 【大学】 ・京都大学、京都市立芸術大学、国際日本文化研究センター、桂イノベーションパークなどの学術研究施設が集積し、外国人や学生など訪れる人が増えていくまちである。 ・国立、公立、市立各教育機関が地域活動への参加がある。しかしながら桂坂の京都大学は今のところ地域への参加が見受けられないと思う。 【スポーツ】 ・身近に散策路やジョギングコースが多くある。 ・散歩、ジョギングや自転車を楽しめる所がある	・西山でのゴミの不法投棄防止策の確立 【景観】 ・桂川をはじめ、大・中河川では、堤防保護の観点から植樹を避けているようであるが、殺風景である。 ・9号線沿いの街並みの景観が気になります。敷地内に、植樹を義務付けてはどうでしょうか。 【農業】 ・農業政策、地産地消、農業を市民が分かるように。 人と歴史・文化が輝くまちづくり(歴史・文化、生涯学習、大学、スポーツ、観光、交流) 【歴史・文化】 ・文化的施設が少なく、あっても地域と密着していない。 【大学】 ・大学との関係がなく、あっても別の世界になっている。

西京区のまちについて、よいところ、伸ばしていくべきだと思われる点	西京区のまちについて、気になるところ、課題と思われる点
【その他】 ・住み慣れた洛西ニュータウンは道路の整備も行き届き、大変暮らしやすい環境です。 ・社会資源(施設、教育機関、公園等)も多く、活用できる環境。 ・閑静な住宅街が多くある。	・通過車両については第2外環の建設に伴う完成後への計画等も準備していく時期に来ているのではないかと思う。 ・道路整備は嵐山東学区を中心に整備すべきである。 ・自転車が安全に走れる道が少ない。 【その他】 ・洛西地域の集合住宅に居住する人々のニーズ把握。 ・ニュータウンの将来像 ・子どもたちが、住まいの近くでキャッチボールできる遊び場が無い。 ・近くに子どもの遊び場が少ない。 ・公共の運動施設や多目的広場が少ない。 ・国道9号線沿いの乱開発防止 ・駅周辺の不法駐輪、不法駐車が目立ちます。
区全般に関連する意見 ・新しいまち、若い区のイメージを大切に。 ・人口規模、構成。 ・住み続けたい町。 ・何はともあれ西京区は全体的にいつまでも住み続けたいまちとされている。 ・子どもたちの生まれ育ったまち、心の故郷としていつまでも美しいまちでありたい。 ・洛西ニュータウンのように新しいまち、新しい風が感じられるまちと、桂のように古い伝統が感じられるまちが融合しているのが大好きです。 ・調和のとれたまちづくり	区全般に関連する意見 ・地域の特徴が少ない。

3 西京区が「目指すべきまちの姿」について

10年後に、西京区は、どのようなまちを目指すべきだと思われるか	目指すべき理由
いつまでも住まいすることができる元気で活力あふれる“まち” ～環境保全から健康づくりのまちへ (ステップUP↑↑)	人の幸せは、まず健康です。 現在取り組んでいる環境保全と併せ、スポーツを奨励し、健康増進のまちづくりを目指す。 一人で取り組むには勇気がいるので、みんなで協力し合えるスポーツやウォーキングが望ましく、これが住民自治の振興にもつながることを期待する。
・一人ひとりが身近な人たちと協力して、助け合っていけるまちづくり ・車に乗らずとも生活できるまち	今はその場所に住んでいるだけという人が増え、まちに誰がいるかも知らないという話もよく聞かすが、人本来の助け合うという気持ちがより良い自分たちのまちをつくと思います。
地下鉄か阪急の整備。	
・赤ちゃんから高齢者までがつながっている。 ・子育てをしたくなる。	核家族、独居老人の多くなってきた今こそ、声掛け、助け合いがないと安心して暮らせない。
「環境づくりのまち」を行政と区民が共同でつくる。	西京区は、商業、工業施設の数市の平均を下回っており、また、農地、自然の山や川にも恵まれています。住まうためのまちとして、西京区を選んだ方々が多いと思います。環境づくりは住民の誰もが参加しなくてはできないことですが、西京区では可能であると思います。環境モデル都市・京都の目指すものを、10年間かけて、こつこつと実践してはどうでしょうか。
・若者や子育て世代を含む多様な世代の参加・参画で息づくまち。 ・自治会等に加え、多様なNPOやグループの活動で、相互に支え合うコミュニティづくり。 ・地域の立地や特性を生かせるまちづくり(現計画の5地域等)。	・区民一人ひとりの日常生活が、実はまちづくりに連動していることに気付かない。活動参加は当たり前と多くの方が考えられればよい。 ・家庭生活(子育て、介護、その他)と他の活動(地域、学校、職場、生きがいなど)その両立が求められていること。 ・個の尊重は、自他の尊重、相互支援で成り立つこと。
自然環境が豊かで、生活しやすい道路、交通網が整備され、安心安全で高齢者に優しく、安心して子育てができ、商店に活気があり、住民のつながりがあるまち。	住民一人ひとりが健康で、お互いに助け合い、住民皆が心豊かに生きていくという人間としての基本である。
市内にあるの利便と、自然環境も良く、農産業も守られ、福祉の充実した市内の模範となるような笑顔と活気あふれる西京区。	高齢化にあっても、若い人もこの区に住むことが喜びとなり、支え合えるまちであり続ける事ができるなら、誰もが豊かに暮らせると思う。

10年後に、西京区は、どのようなまちを目指すべきだと思われるか	目指すべき理由
ゆっくりと安心して生活できるまち	自然が残っている(緑を利用して健康的に生活できるまち)
自然豊かな所、西山や文化財の保全 公園や多目的広場、住民の憩いの場を多くし、地域コミュニティの向上	今の良い環境を残したいし、近所や町内の人と人との交流を深める。
安心安全に住み続けたいまち。緑多い心休まるまち。助け合いのまち。	高齢化が進むなか、若い人に住みたいと思う心を育てるため。 安心安全で互いに心通う温かいまちにするため。
阪急線、JR 線との鉄道網のつながりの充実。 1 小学区、1 自治連のまとまりを大切に地域のつながりを密にする。 建物の低層化、高層建築は都心部でよい。あくまで住宅居住地中心地域であること。	地下鉄西伸が無理であれば、他の鉄道網を充実させ住民の利便性を向上させるべきである。 西京は 1 小学校区に各 1 つの自治連が運営されているので学校を中心としたまとまりの充実を期待する。
各エリア毎で、地域に生活する人々が集い、常にまちづくりについてディスカッションができる場と、仕組みをつくる。	区民、事業者、行政の協働を実現する場と仕組みづくりが求められる。
豊富な学術・研究施設に多くの外国人や研究者が訪れることにより、区民との活発な交流が行われるアカデミックなまちづくりに取り組んでいくこと。	西京区には、京都大学、京都市立芸術大学、国際日本文化研究センターなど学術研究施設が豊富に存在するため。
若い人たちが市街地に住み、高齢者がますます多くなり、寂しい西京区になるのではないのでしょうか。	交通の便が良くなること 地下鉄ができれば、人も集まり、一人ひとりが輝き夢が広がる地域になるのでは。
高齢者がまちを歩いて安心してゆとりをもてるまち 若い人が積極的に高齢者や子どもたちに声が気軽に掛けれるまち	
・多世代がまちづくりに参加するまち	必ずしも地縁・血縁に関わらない個人と地域の関係を構築する必要があるため
・大原野地域とニュータウン接点	大原野地地域の昔からの流（良いところ）とニュータウンの良いところをお互いによく話し合う。そして互いに活性化ができればよいと思う。
・市内へのアクセスの充実と西京区内交通網の充実	市内行政区と比較すると劣っていると考えます。主要駅に着くと市内へは短時間で移動出来るが、西京区内で時間がかかる。すなわち全体的には西京区各所からの市内への時間がかかりすぎ

4 「10年後に目指すべきまちの姿」を実現させるために必要な取組について

「10年後に目指すべきまちの姿」を実現するために必要な取組 注:[] 内は、「10年後に目指すべきまちの姿」	区民の役割	各種の団体の役割	事業者の役割	行政の役割
・教育の三位一体⇒学校、家庭、地域が、子どもたちの教育環境を活性化させる。松尾から発信し、西京区全体が、「教育の三位一体」の取組に協力し、地域教育の向上に努める。 ・交通渋滞の解消⇒①地下鉄東西線の洛西方面までの延伸、②嵐山の清滝道高架橋道路南詰に新渡月橋を架橋し、桂川右岸道路を桂川街道まで新設して、桂川左岸ふし見堤道路との一方通行で渋滞の解消。 ③阪急嵐山線の全線高架 【いつまでも住まいすることができる元気で活力あふれる“まち”～環境保全から健康づくりのまちへ(ステップUP↑↑)】	地域に目を向け、自治活動へ積極的に参画する。	多くの住民がふれあうことのできる事業に重点を置き、決して事業の数を競うことなく、成果の達成と中身の充実を期待したい。	地域住民の意向が欠かせないので、意見、提案には十分耳を傾け、協同で取り組むよう配慮し、その分住民にも協力させればよい。	・事業目的を分割し、各テーマに応じた地域役員やボランティアで協同、提案させ、実行に移す。 ・住民自治の振興には、助成金制度が欠かせない。
まず、自分たちの身近な人たちと協力し、良いところを残し、悪いところを改善していこうとする前向きさが重要だと思います。一つの考えにこだわらず、広い視野を皆が持つ事が必要ではないでしょうか。 【・一人ひとりが身近な人たちと協力して、助け合っていけるまちづくり ・車に乗らずとも生活できるまち】	古い新しいのこだわりをぬぐい、皆で助け合いが出来る様考えていく事が重要だと思います。自治会の新しい形も皆で話せばいい案が出てくると思います。	地域の団体として、子どもや年配者を見守る活動もしていただければと思います。(交通安全、一人暮らしの老人の方の訪問等)	・地元のイベント、祭等に参加協力いただき、西京区の良さを各方面にアピールしていただく。 ・地元住民の雇用を増やしていく	・自治会のない地域等に防災の面などから何がどう必要か、本来の自治会の意味を説明していただき、何らかのコミュニティーをつくっていく指導をして頂きたい。 ・旧道等の歩道の設置をお願いしたい。 ・高通網の拡大、整備

「10年後に目指すべきまちの姿」を実現するために必要な取組 注:[] 内は、「10年後に目指すべきまちの姿」	区民の役割	各種の団体の役割	事業者の役割	行政の役割
・すこやかサロンの維持 ・育児相談，一時保育等，子育て支援 【・赤ちゃんから高齢者までがつながっている。 ・子育てをしたくなる。】	子どもから大人まで，地域の行事，ボランティアに参加する。 自治会への加入。	地域ぐるみの行事を企画，運営		企画実現への手助け，場所の提供
・環境づくりについて勉強をする。西京区の中にあるもので，勉強することが大切である。大原野の農地や山林を，区民の勉強の材料として，積極的に活用する方法もある。 ・NPO から少人数のグループまでの活動を見守り，応援するシステムを作る。（例：「西京区ひとまち交流館」を設けて，グループ間の交流，情報発信，会議場の提供を行う。区民活動の核として位置付ける。空教室または，既存の施設利用の検討。 【「環境づくりのまち」を行政と区民が共同でつくる。】	行政に頼らず，自分たちの力で活動する方法を考える。		事業者の方の活動参加への期待は大きいものがあります。計画段階から事業者の方へも，情報を提供して，事業者は，まちづくりの仲間として，活動に参加する。	行政は区民活動のための制度，助成金の面で，西京区の実情に合った様々な新しいアイデアを出して，区民と共にまちづくり活動を行う。
(1)期待すべき若者，子育て世代のニーズを把握し，計画に織り込みたい。 (2)高齢独り世帯や老々介護世帯への見守りや声掛けなどで，孤立する人のない地域づくり。 (3)例えば，「子育て広場」や「男性介護者の孤立対応」，「若者とアクセス」など。 【・若者や子育て世代を含む多様な世代の参加・参画で息づくまち。 ・自治会等に加え，多様な NPO やグループの活動で，相互に支え合うコミュニティづくり。 ・地域の立地や特性を生かせるまちづくり(現計画の 5 地域等)。】	近隣での声掛け，「お互いさま」の相互支援。	・ニーズのキャッチ，アイデアの掘り起こし ・呼び掛け，働き掛け，まとめ役割。	・課題の発信 ・専門性，人材を生かした地域への支援，相談対応，時には出前など。	・ニーズの把握，分析。 ・情報の収集，発信。情報共有システムづくり。 ・区の施策も含め，地域の活動にふさわしい施策となるよう，提言をしていく等。

「10年後に目指すべきまちの姿」を実現するために必要な取組 注:[] 内は、「10年後に目指すべきまちの姿」	区民の役割	各種の団体の役割	事業者の役割	行政の役割
まちですれちがう人々が、気軽に立ち話しをし、井戸端会議に発展させていくことができるシステムが必要。毎月定期的に公園などで情報交換できるまち。 【自然環境が豊かで、生活しやすい道路・交通網が整備され、安心安全で高齢者に優しく、安心して子育てができ、商店に活気があり、住民のつながりがあるまち。】	あいさつをいつでもどこでも、気持ち良くしていくように心掛ける。	公園等でミニ集会を開き、地域に必要な情報を公開する。	人の気持ちになって行動する。	人と人との交流が、進んでいる先進事例を、広報していく。 安心安全なまちづくりを推進する。
今まで以上に区民との協働を図るための情報の双方発信と、行政との情報の共有など。 【市内にあっての利便と、自然環境も良く、農産業も守られ、福祉の充実した市内の模範となるような笑顔と活気あふれる西京区。】	自治会等色々な活動への参画。	積極的基本計画への参画と行動。	住民への理解と基本的計画への参画と行動。	区民との協働において、住民への情報の公開と、提供を速やかにし、関係各所との協働と連携を推し進める。
各団体間の協力 【ゆっくりと安心して生活できる町】	参加と協力(一人ひとりの)	連携(各種団体間の)強化		
・各地域での祭りや文化的イベントの開催(地域主導型)。 ・緑化活動。 【安心安全に住みつづけたいまち。緑多い心休まるまち。助け合いのまち。】	地域に参加する事が大事。地域を意識すること、助け合う心を持つ事。	縦割りではなく、ネットワークを大切に個々の活動を促進する。	地域貢献に力を入れていただき、地域のリーダーとしての存在を。 産業力のアップ。	あらゆる活動に対してバックアップする体制を確立。

「10年後に目指すべきまちの姿」を実現するために必要な取組 注:[] 内は、「10年後に目指すべきまちの姿」	区民の役割	各種の団体の役割	事業者の役割	行政の役割
環境美化活動 西京区の中心へ人が集える様に(例：区役所への交通網の充実等，料金も都心と同じく均一化できる様に) 【阪急線，JR線との鉄道網のつながりの充実。1小学区，1自治連のまとまりを大切に地域のつながりを密にする。建物の低層化，高層建築は都心部でよい。あくまで住宅居住地中心地域であること。】	西京に居住している誇りを持つ。 一人ひとりが美しいまちづくり，地域でのつながりを大切にする気持ちでいる事。	各学区で住民が参加しやすい各団体であること。	地域に貢献できる事業者であるべき。	桂川，西山の風景を大切にした各学区の特色を大切にまちづくりを進める。
区全体の情報整理と横断的な関係づくり。 地域に住む，働く人々が，地域への思いを持ち，行動を起こすこと。 【各エリア毎で，地域に生活する人々が集い，常にまちづくりについてディスカッションができる場と，仕組みをつくる。】	区・地域のことを自らのことと考え，活動を起こす。	自らの目的の実行と，異分野との交流・理解。	地域の事業者として，地域全体の利益を常に考える。	区民ニーズに従った行政の仕組みづくり。
・桂イノベーションパークの充実。 ・西京区全体が歩いて楽しいまちとまるようみんなで考える必要がある。 【豊富な学術研究施設に多くの外国人や研究者が訪れることにより，区民との活発な交流が行われるアカデミックなまちづくりに取り組んでいくこと。】				
・地域の活動相互の情報交換 ・地域の特色を生かした取組 【若い人たちが市街地に住み，高齢者がますます多くなり，寂しい西京区になるのではないだろうか】	笑顔あふれる地域づくり 熱い思いと行動力			
新しい人々と元からの人々とが交流するイベントを多く取り組む。 【高齢者がまちを歩いて安心してゆとりを持てるまち。若い人が積極的に高齢者や子どもたちに声が気軽に掛けれるまち。】				
・まちづくり活動の連携組織 ・地域独自の資源（自然・景観・活動）を生かした活動 【多世代がまちづくりに参加するまち】	・まちづくりへの主体的な参加 ・資源との関わりをつくる	・活動ノウハウの提供	・活動拠点の提供 ・地域のまちづくりと連携した施設再生	・居住者，各種団体と，事業者を含めたパートナーシップの形成

「10年後に目指すべきまちの姿」を実現するために必要な取組 注:[] 内は、「10年後に目指すべきまちの姿」	区民の役割	各種の団体の役割	事業者の役割	行政の役割
				・まちづくりに関する情報が集積する場所として機能する
地区計画 【大原野地域とニュータウン接点】	区民の皆さん一人ひとりが意見を出し合い納得いくまで話し合う。	団体の役員は徹底的に勉強する。		区民の皆さんのまとまった意見を集約し、地域がどうすればよいか方向付けを指導する。
A やはり、何はともあれ地下鉄の乗り入れだと思う。 B 区内循環小型バス等を頻繁に運行する。 【市内へのアクセスの充実と西京区内交通網の充実】	A あらゆるメディアを利用、活用して必要性を訴える。 B 一般交通機関の利用を極力抑えて、主に循環バスを大いに利用する。	A・B 共、各団体組織を大いに利用、活用して必要性を関係機関に訴える。	A・Bに限らず事業は極力速やかに実施・実行すべきである。	区民の願い・思い・必要性をくみ取り、京都市へ訴えていただきたい。